

航空

2023年11月21日



平野ロジスティクス 「解決力」武器に物流効率化



充実したオリジナル・トレーラー群を駆使して高品質サービスを提供している

平野ロジスティクスは、需要が多様化する成田―羽田間の保税転送（OLT）サービスを強化している。ユニット・ロード・デバイス（ULD）、ばら積み貨物など、対象となる貨物の形態もさまざま。大型トラックからオリジナル・トレーラー、大型貨物に対応する平ボディ車などを駆使し、高品質サービスで各種需要に的確に対応している。益子研一取締役営業本部長は「課題への解決力を武器に、より効率的なサービスを提供することで、航空会社やフォワーダー、上屋会社、荷主など、航空貨物にかかわる事業者のメリット、航空貨物業界の発展につながるサービス、仕組みを追求する」と強調する。

平野ロジスティクスの車両体制は、トラックは大型車を中心に約200台。さらにオリジナル・トレーラーが加わる。現在のオリジナル・トレーラーの体制は▷大型トラックよりも96インチ仕様のULDを2台多く搭載できる「+2」▷同1台多く搭載できる「+1」▷「+1」に改良を加えて背高貨物などへの対応に柔軟性を持たせた「+1a」▷「+1」に空調機能を施した「+1COOL」▷大型トラックよりもLD3換算で7台多くコンテナを搭載できるとともに複数のパレタイズ貨物を搭載できる「+7」▷「+7」に改良を加えてコンテナを8台多く搭載できる「+

8)▷「+7」に空調機能を持たせた「+7COOL」など。「+1」に空調機能を施した「+1COOL」も投入し、高品質が求められる医薬品輸送に特に力を発揮。

航空機エンジンなどの大型貨物を搭載できる平ボディ・トレーラーも配備している。さらに最新鋭の平ボディ・トレーラーを開発中で、年内にも導入を計画している。性能が高度化するにつれて、最先端の半導体製造装置をはじめとする精密機器のサイズも大きくなる。こうした貨物に対応する空調コンテナのサイズも大型化する傾向にある。精密機器を複数搭載できる、あるいは大型化した精密機器・空調コンテナの搭載を可能とするサイズのトレーラーとして開発している。

成田―羽田間のOLTに関しては、成田空港の南部貨物地区にトレーラー（荷台部分）の専用置場を確保していることも強みとなっている。専用スペースに置かれているトレーラーに順次、貨物を搭載。貨物搭載が完了したトレーラーをトラクター（ヘッド部分）が適宜、けん引して輸送する。空港現場には積み降ろしに携わる専任のオペレーターを配置。上屋の状況を把握しながら、貨物の積み降ろし、貨物の保管・管理状況などを常時、確認する。

トレーラーの運行と貨物搭降載を並行して実施できることで待ち時間解消、運行効率を高めることができる。成田のトラック・トレーラーの待機場を有効活用することで成田―羽田間の物流効率化に貢献。かつ環境負荷低減、労働環境のさらなる向上などに役立てる体制をとっている。

トレーラーの活用による物流効率化は、ドライバーの年間残業時間規制が厳格化する「2024年問題」の解決策でもある。すでに2016年の時点でドライバーの勤務体系の見直しなどに着手するなど、就労環境の改善に取り組んできた。トレーラーの有効活用などを含めて「2024年問題」への対応を完了済みだ。効率的な輸送体制を着実に構築してきた成果でもある。

益子取締役は「オリジナル・トレーラーの開発、トレーラー専用スペースの確保、混載サービスの提供など、成田―羽田間の輸送効率化を追求する『成羽シャトルシステム』の構築に10年以上前から取り組んできた」と説明。「コロナ禍の3年強の間にも、国際線旅客便再開を見据えてトレーラー増強などを図ってきた。羽田空港の国際線旅客便が回復、増加傾向にある中で、『成羽シャトルシステム』は、より力を発揮する。効率的なシステムを運用し、常にそれを強化することで、空港間輸送のリーディングカンパニーとして航空貨物業界の発展に貢献する」と話す。

昨今、成田―羽田間のOLTに関してはULDやばら積み貨物など、貨物形態も多様化している。成田空港外のフォワーダー施設と羽田空港を結ぶOLT需要も増加しているという。貨物の形態、輸送の形態が変化する中であっても、オリジナル・トレーラーや効率的な運行システム

を駆使して、無理なく高品質サービスを提供している。益子取締役は「自然災害や世界的な政治情勢、景気動向、法規制などさまざまな課題が物流にも影響を及ぼす。こうした事態、状況への解決力を常に探究し、それを実行してきた。これからも、どのような事態が発生しても『絶対に運び続ける』ために、何をすればよいのか。それを研究し実践することが企業としての価値につながる」と言及する。環境対応とともに、自然災害による道路網寸断といったリスクも念頭に、フェリーの活用などにも積極的に取り組んでいる。「解決力」を武器に物流効率化に取り組み、航空貨物業界の発展に貢献する方針だ。

Daily Cargoに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.